

日本(仮訳)

ニホンウナギの漁獲量

項目	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
シラスウナギの採捕量	トン	9.2	9.5	9.0	5.2	17.4	15.3	13.6	15.5	8.9	3.6(*1)
シラスウナギに対する漁獲努力量	許可数	6,723	6,619	6,669	6,781	6,617	4,698	4,398	4,790	5,874	5,898(*2)
項目	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
うなぎ成魚の漁獲量	トン	245	229	165	135	112	70	71	71	-	-

シラスウナギの養殖池への池入れ量

種	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19(*3)
ニホンウナギ	トン	19.9	21.8	15.9	12.6	27.1	18.3	19.7	19.6	14.2	15.1
その他のうなぎ	トン	0.03	0.01	0.4	1.3	3.5	0.0	0.2	0.1	0.03	0.02
合計	トン	19.9	21.8	16.3	13.9	30.6	18.3	19.8	19.7	14.2	15.1

養殖に関するその他のデータ

項目	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
養殖産業の規模	経営体数	-	-	-	384	-	515	514	491	496	513

注釈:

- シラスウナギに関するデータの対象期間(シラスウナギの採捕量、漁獲努力量及び養殖池への池入れ量)は、シラスウナギの採捕シーズン(「20XX-XX+1」は、20XX年11月1日から20XX+1年10月31日を意味する)とし、その他のデータの対象期間は西暦とする。
 - データが無い場合は「-」を入力し、ゼロの場合は「0」を入力する。
 - シラスウナギの採捕量、うなぎ成魚の漁獲量及び養殖池へのシラスウナギの池入れ量の単位は、可能な限り重量とする(キログラム又はトン)。
 - シラスウナギに対する漁獲努力量及び養殖産業の規模の単位は、情報の有効性を考慮し各組織で選択する。漁獲努力量の単位の例としては、許可数、漁業者数又は漁業船隻数がある。養殖産業の規模の単位の例としては、経営対数又は養殖池の面積がある。
 - うなぎ成魚の漁獲量統計がない場合、代わりに資源の動向を示す調査活動を検討する。
 - シラスウナギの池入れデータは、可能な限り種別(ニホンウナギ、アメリカウナギ、ビカーラ等)に入力する。種に限定したデータが提供できない場合、「合計」欄にデータを入力する。
- *1 2018-2019漁期のシラスウナギの採捕量のデータは11月1日から4月30日までの値。
- *2 2018-2019漁期の許可数のデータは概算値。
- *3 2018-2019漁期のシラスウナギの池入れ量のデータは、11月1日から4月30日までの値。

うなぎ及びうなぎ製品の輸出

種	タイプ・大きさ	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019(*1)
ニホンウナギ	生きたうなぎ	トン	27.7	36.5	10.4	2.2	38.8	20.7	25.8	45.6	7.4	0.2
	蒲焼き	トン	-	-	21.2	30.0	30.9	38.9	45.2	66.6	59.1	18.9
合計		トン	27.7	36.5	31.6	32.1	69.6	59.6	71.0	112.2	66.6	19.1

シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出

種	タイプ・サイズ	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
ニホンウナギ	うなぎ稚魚	トン	4.6	9.6	5.7	1.6	6.7	1.3	0.4	0.9	2.6	-
	うなぎ稚魚	尾数	1,175,730	0	133,668	0	3,573,540	526,977	1,634,988	2,447,269	-	-

うなぎ及びうなぎ製品の輸入

種	タイプ・大きさ	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019(*2)
	生きたうなぎ	トン	14,840.8	9,657.6	4,677.6	4,789.2	4,781.1	7,066.7	7,276.1	6,815.7	8,812.7	2,411.9
	蒲焼き	トン	38,230.8	24,403.2	14,983.3	13,468.5	15,432.7	24,089.4	24,193.2	25,477.8	24,423.6	9,210.4
合計		トン	53,071.6	34,060.8	19,660.9	18,257.7	20,213.7	31,156.1	31,469.3	32,293.5	33,236.3	11,622.3

シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸入

種	タイプ・大きさ	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19(*3)
	シラスウナギ	トン	11.1	13.1	9.2	10.7	12.5	3.6	7.6	4.8	5.3	11.6

注釈:

- シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出入データの対象期間はシラスウナギの採捕シーズンとし、その他のデータの対象期間は西暦とする。
- データが無い場合は「-」を入力し、ゼロの場合は「0」を入力する。
- 単位は可能な限り重量(キログラム又はトン)とする。
- うなぎ及びうなぎ製品の輸出入のタイプ・大きさの例としては、生きたうなぎ、冷凍、冷蔵又は蒲焼きがある。
- シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出のタイプ・大きさの例としては、シラスウナギ、クロコ又はうなぎ稚魚がある。 大きさの分類(例: 15cm以下、501-5000尾/kg 等)も入力可。
- シラスウナギの池入れデータ及び養殖生産量は、可能な限り種別(ニホンウナギ、アメリカウナギ、ビカーラ等)に入力する。種に限定したデータが提供できない場合、「合計」欄にデータを入力する。

*1 2019年のうなぎ及びうなぎ製品の輸出データは1月1日から4月30日までの値。

*2 2019年のうなぎ及びうなぎ稚魚の輸入データは1月1日から4月30日までの値。

*3 2018-2019漁期のシラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸入データは11月1日から4月30日までの値。

データの出典・収集又は算出方法

項目	データの出典・収集又は算出方法
シラスウナギの採捕量	上述のウナギ養殖業者の全国団体が取りまとめたシラスウナギの池入れ量から、シラスウナギの輸入量（各漁期の値を貿易統計から算出）を引いて漁期（前年の12月から4月）毎に算出したデータ。
シラスウナギに対する漁獲努力量	シラスウナギに対する漁獲努力量の指標は、許可発給の権限を有する各県から報告された許可数の合計。
うなぎ成魚の漁獲量	農林水産省が編さん・刊行した「漁業・養殖業生産統計」から引用したデータ。この統計のデータには、主要河川及び湖沼の漁協と全国の養殖業者に対する、漁獲・養殖生産についての質問表に由来の値が含まれる。
シラスウナギの養殖池への池入れ量	ニホンウナギ（ <i>Anguilla japonica</i> ）のデータは、ウナギ養殖業者の全国団体がメンバーからの池入れ報告に基づき取りまとめた値を引用。ニホンウナギを除くうなぎ類のデータは、ウナギ養殖業者からの報告に基づき記載。データは漁期毎に収集（11月から翌10月まで）
養殖産業の規模	養殖産業の規模の指標は、ウナギ養殖業の経営体数。2013年のデータについては、5年毎に農林水産省が公表している「漁業センサス」から引用。2015年から2018年のデータについては、2015年に施行された内水面漁業の振興に関する法律に基づき農林水産大臣の許可を受けたウナギ養殖業者の数。
うなぎ及びうなぎ製品の輸出	財務省が編さん・刊行した「貿易統計」から引用したデータ。統計コードは03.01.92.000（活魚－うなぎ（うなぎ類））と、1604.17.000（調整又は保存に適した処理をしたもの。キャビア及び魚卵から調整したキャビア代用品）。蒲焼きの量は、調整品の量を0.6で割り、全魚体重として算出。
うなぎ稚魚の輸出	輸出業者から提出された、うなぎ稚魚の尾数又は重量の輸出実績報告書から引用したデータ。
うなぎ及びうなぎ製品の輸入	財務省が編さん・刊行した「貿易統計」から引用したデータ。統計コードは03.01.92.200（活魚－うなぎ（うなぎ類）－その他）と、1604.17.000（調整又は保存に適した処理をしたもの。キャビア及び魚卵から調整したキャビア代用品）。蒲焼きの量は、調整品の量を0.6で割り、全魚体重として算出。
うなぎ稚魚の輸入	財務省が編さん・刊行した「貿易統計」から引用したデータ。統計コードは03.01.92.100（活魚－うなぎ（うなぎ類）－養殖用稚魚）。

韓国（仮訳）

ニホンウナギの漁獲量

項目	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19.3
シラスウナギの採捕量	トン	2.4	2.5	1.5	1.0	5.5	4.7	1.8	2.7	1.0	0.6
シラスウナギに対する漁獲努力量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
項目	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
うなぎ成魚の漁獲量	トン	119	72	106	69	85	80	68	48	59	—

シラスウナギの養殖池への池入れ量

種	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19.3
ニホンウナギ		10.6	9.5	3.6	3.0	13.9	7.4	9.3	10.6	5.3	1.3
その他のうなぎ		1.5	1.6	5.9	13.2	2.9	5.1	3.7	0.6	3.7	0.2
合計	トン	12.1	11.1	9.5	16.2	16.8	12.5	13.0	11.2	9.0	1.5

養殖に関するその他のデータ

項目	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
養殖産業の規模	経営体数	521	523	524	532	536	564	542	555	558	—

注釈:

- シラスウナギに関するデータの対象期間(シラスウナギの採捕量、漁獲努力量及び養殖池への池入れ量)は、シラスウナギの採捕シーズン(「20XX-XX+1」は、20XX年11月1日から20XX+1年10月31日を意味する)とし、その他のデータの対象期間は西暦とする。
- データが無い場合は「-」を入力し、ゼロの場合は「0」を入力する。
- シラスウナギの採捕量、うなぎ成魚の漁獲量及び養殖池へのシラスウナギの池入れ量の単位は、可能な限り重量とする(キログラム又はトン)。
- シラスウナギに対する漁獲努力量及び養殖産業の規模の単位は、情報の有効性を考慮し各組織で選択する。漁獲努力量の単位の例としては、許可数、漁業者数又は漁業船隻数がある。養殖産業の規模の単位の例としては、経営対数又は養殖池の面積がある。
- うなぎ成魚の漁獲量統計がない場合、代わりに資源の動向を示す調査活動を検討する。
- シラスウナギの池入れデータは、可能な限り種別(ニホンウナギ、アメリカウナギ、ビカーラ等)に入力する。種に限定したデータが提供できない場合、「合計」欄にデータを入力する。

うなぎ及びうなぎ製品の輸出

種	Type/Size	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
うなぎ類	合計	トン	0.6	67.6	91.3	9.6	0.4	3.0	5.4	44.3	30.2	0.5
	生きたうなぎ		0.2	28.6	79.9	2.3	0.1	0.4	0.0	19.4	0.2	0.0
	冷凍		0.1	39.0	11.1	0.0	0.0	0.1	2.1	23.8	25.2	0.2
	冷蔵		0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.6	0.0
	その他		0.2	0.0	0.1	7.3	0.3	2.4	3.3	1.1	4.2	0.3

シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出

種	タイプ・大きさ	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
うなぎ類	生きたうなぎ/シラスウナギ	トン	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

うなぎ及びうなぎ製品の輸入

種	タイプ・大きさ	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
うなぎ類	合計	トン	3,235.4	666.9	234.0	946.9	1,466.8	1,009.2	988.4	1,366.6	1,841.8	138.0
	生きたうなぎ		3,026.1	481.8	137.7	837.0	1,358.8	799.2	615.9	740.6	1,011.9	14.9
	冷凍		1.2	22.5	26.9	43.2	38.3	26.1	63.7	42.1	71.8	0.0
	冷蔵		0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
	蒲焼き		208.1	162.6	69.2	66.7	69.6	183.9	308.8	583.9	757.8	123.1

シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸入

種	タイプ・大きさ	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19.3
うなぎ類	生きたうなぎ/シラスウナギ	トン	10.2	8.7	9.0	15.2	10.3	7.8	11.1	8.5	8.0	0.9

- 注釈:
- シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出入データの対象期間はシラスウナギの採捕シーズンとし、その他のデータの対象期間は西暦とする。
 - データが無い場合は「-」を入力し、ゼロの場合は「0」を入力する。
 - 単位は可能な限り重量(キログラム又はトン)とする。
 - うなぎ及びうなぎ製品の輸出入のタイプ・大きさの例としては、生きたうなぎ、冷凍、冷蔵又は蒲焼きがある。
 - シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出のタイプ・大きさの例としては、シラスウナギ、クロコ又はうなぎ稚魚がある。 大きさの分類(例:15cm以下、501-5000尾/kg 等)も入力可。
 - シラスウナギの池入れデータ及び養殖生産量は、可能な限り種別(ニホンウナギ、アメリカウナギ、ビカーラ等)に入力する。種に限定したデータが提供できない場合、「合計」欄にデータを入力する。

データの出典・収集又は算出方法

項目	データの出典・収集又は算出方法
シラスウナギの採捕量	養鰻水協のデータ。
シラスウナギに対する漁獲努力量	—
うなぎ成魚の漁獲量	海洋漁業省が編さん・刊行した「水産情報ポータル」から引用したデータ。
シラスウナギの養殖池への池入れ量	養鰻水協のデータ。
養殖産業の規模	養鰻水協のデータ。
うなぎ及びうなぎ製品の輸出	海洋漁業省が編さん・刊行した「水産情報ポータル」から引用したデータ。
うなぎ稚魚の輸出	海洋漁業省が編さん・刊行した「水産情報ポータル」から引用したデータ。
うなぎ及びうなぎ製品の輸入	海洋漁業省が編さん・刊行した「水産情報ポータル」から引用したデータ。
うなぎ稚魚の輸入	海洋漁業省が編さん・刊行した「水産情報ポータル」から引用したデータ。

チャイニーズ・タイペイ(仮訳)

ニホンウナギの漁獲量

項目	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
シラスウナギの採捕量	トン	0.74	2.04	1.91	0.96	8.25	1.1	3.06	4.5	1.1	2.75
シラスウナギに対する漁獲努力量	漁船隻数	-	-	-	213	232	250	245	251	272	311
うなぎ成魚の漁獲量		-	-	-	-	-	-	-			

シラスウナギの養殖池への池入れ量

種	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
ニホンウナギ	トン	13.1	3.8	2.2	1.5	12.5	2.8	3.6	7.3	1.03	0.1
その他のうなぎ	トン	-	-	5.5	10.0	1.5	0.2	0.08	0.1	0.05	
合計	トン	13.1	3.8	7.7	11.5	14.0	3.0	3.7	7.4	1.08	

養殖に関するその他のデータ

項目	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
養殖産業の規模	養殖場の面積(ヘクタール)	1,714	814	449	305	456	391	392	409		

注釈:

- シラスウナギに関するデータの対象期間(シラスウナギの採捕量、漁獲努力量及び養殖池への池入れ量)は、シラスウナギの採捕シーズン(「20XX-XX+1」は、20XX年11月1日から20XX+1年10月31日を意味する)とし、その他のデータの対象期間は西暦とする。
- データが無い場合は「-」を入力し、ゼロの場合は「0」を入力する。
- シラスウナギの採捕量、うなぎ成魚の漁獲量及び養殖池へのシラスウナギの池入れ量の単位は、可能な限り重量とする(キログラム又はトン)。
- シラスウナギに対する漁獲努力量及び養殖産業の規模の単位は、情報の有効性を考慮し各組織で選択する。漁獲努力量の単位の例としては、許可数、漁業者数又は漁業船隻数がある。養殖産業の規模の単位の例としては、経営対数又は養殖池の面積がある。
- うなぎ成魚の漁獲量統計がない場合、代わりに資源の動向を示す調査活動を検討する。
- シラスウナギの池入れデータは、可能な限り種別(ニホンウナギ、アメリカウナギ、ビカーラ等)に入力する。種に限定したデータが提供できない場合、「合計」欄にデータを入力する。

*1 2018-2019漁期のシラスウナギの漁獲量は11月1日から2月28日までの概算値。

*2 2018-2019漁期のシラスウナギの池入れ量は11月1日から3月31日までの概算値。

うなぎ及びうなぎ製品の輸出

種	タイプ・大きさ	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ニホンウナギ	生きたうなぎ	トン	8,979	4,997	1,363	867	892	2,845	2,544	2,030	2,396	
	うなぎ調整品	トン	1,706	803	303	155	137	487	207	135	139	
	蒲焼き	トン	780	330	68	21	17	75	23	0	23	
マルモラータ	生きたうなぎ	トン	29	283	95	16	0	14	0	18	48	
オーストラリアウナギ	生きたうなぎ	トン	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他のうなぎ	生きたうなぎ	トン	0.38	0	0	2	20	0	0	0		

シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出

種	タイプ・大きさ	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
ニホンウナギ	シラスウナギ	トン	0	0	0.9	0.1	0.2	0	0.00	0	0.26	
	うなぎ稚魚	トン	0	0	0.4	0.02	0.01	0	0.10	0	2.89	
	若齢うなぎ	トン	0	0	0.04	2.08	0	0	0.00	0	1.67	

うなぎ及びうなぎ調整品の輸入

種	タイプ・大きさ	単位	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ニホンウナギ	生きたうなぎ	トン	3.1	0.8	0.3	0	0	0	0	0	0	
	うなぎ調整品	トン	0	0	0	0	0.003	0.018	0.147	6.49	0	
	蒲焼き	トン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
マルモラータ	生きたうなぎ	トン	5.2	11.6	10.7	7.7	4.2	0.8	0.628	3.28	0	
オーストラリアウナギ	生きたうなぎ	トン	18.1	12.9	0	0	0	0.4	0	0	0	
その他のうなぎ	生きたうなぎ	トン	0.2	0	0	0	24.1	3.3	0	0	2.161	

シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸入

種	タイプ・大きさ	単位	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18	2018-19
ニホンウナギ	シラスウナギ	トン	0.1	0.4	1.3	0.7	2.0	0.6	0.40	0.7	0.88	
	うなぎ稚魚	トン	1.0	0.8	0.5	0.7	4.3	0.1	0.80	2	0.09	
	若齢うなぎ	トン	24.0	29.6	6.1	2.9	34.1	21.2	20.10	33	5.81	

注釈:

- 1. シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出入データの対象期間はシラスウナギの採捕シーズンとし、その他のデータの対象期間は西暦とする。
- 2. データが無い場合は「-」を入力し、ゼロの場合は「0」を入力する。
- 3. 単位は可能な限り重量(キログラム又はトン)とする。
- 4. うなぎ及びうなぎ製品の輸出入のタイプ・大きさの例としては、生きたうなぎ、冷凍、冷蔵又は蒲焼きがある。
- 5. シラスウナギ及びうなぎ稚魚の輸出のタイプ・大きさの例としては、シラスウナギ、クロコ又はうなぎ稚魚がある。 大きさの分類(例: 15cm以下、501-5000尾/kg 等)も入力可。
- 6. シラスウナギの池入れデータ及び養殖生産量は、可能な限り種別(ニホンウナギ、アメリカウナギ、ビカーラ等)に入力する。種に限定したデータが提供できない場合、「合計」欄にデータを入力する。

データの出典・収集又は算出方法

項目	データの出典・収集又は算出方法
シラスウナギの採捕量	シラスウナギの漁獲量のデータは、漁業統計年鑑に由来する。漁会を通して地方行政区がデータを収集し、漁期毎に漁業署へ報告する。不合理な点があった場合、漁業署は地方行政区へ再点検・再確認を依頼する。その他、種(うなぎ類)のうち大多数はニホンウナギであるが、少数のその他のうなぎ類が含まれる可能性がある。 シラスウナギの漁獲量データの原単位は尾数であり、5,000尾/Kg にて重量換算している。その他、漁期は2011年に導入された。原データの条件を遡って調べることは困難なため、合理的なデータのみを記載する。2013年のデータは推定値であり、確定後に修正する。
シラスウナギに対する漁獲努力量	シラスウナギを含む稚魚を捕ることを許可された漁船の隻数。
うなぎ成魚の漁獲量	－
シラスウナギの養殖池への池入れ量	ニホンウナギ及びその他のうなぎのデータは、台湾区鰻魚発展基金会在、会員からの池入れ量の報告に基づき取りまとめたもの。
Scale of aquaculture industry	養殖産業の規模は養殖面積(ヘクタール)で示す。養殖面積のデータは、漁業統計年鑑に由来する。市町村事務所による口頭調査を通して地方行政区がデータを収集し、漁期毎に漁業署へ報告する。不合理な点があった場合、漁業署は地方行政区へ再点検・再確認を依頼する。2013年のデータは推定値であり、確定後に修正する。
Export of adult eel and eel product	輸出データは財政部関務署の統計に由来する。CCC(輸出入品分類)コードは、3019210101(生きたニホンウナギ)、16041910112(うなぎ調整品)、16041910130(うなぎ蒲焼き)、03019210904(マルモラータ)、03019929407(オーストラリアウナギ)及び03019210209(うなぎ類)である。なお、2013年以降、CCCコードのうなぎ調整品は16041700116へ、うなぎ蒲焼きは16041700125へ変更された。
Export of juvenile eel	輸出データは財政部関務署の統計に由来する。CCC(輸出入品分類)コードは、3019220109(シラスウナギ(1kgに5,000尾以上))、3019220207(うなぎ稚魚(1kgに501-5000尾))及び3019220305(若齢うなぎ(1kgに11-500尾))。
Import of adult eel and eel product	輸入データは財政部関務署の統計に由来する。CCC(輸出入品分類)コードは、3019210101(生きたニホンウナギ)、16041910112(うなぎ調整品)、16041910130(うなぎ蒲焼き)、03019210904(マルモラータ)、03019929407(オーストラリアウナギ)及び03019210209(うなぎ類)である。なお、2013年以降、CCCコードのうなぎ調整品は16041700116へ、うなぎ蒲焼きは16041700125へ変更された。
Import of juvenile eel	輸入データは財政部関務署の統計に由来する。CCC(輸出入品分類)コードは、3019220109(シラスウナギ(1kgに5,000尾以上))、3019220207(うなぎ稚魚(1kgに501-5000尾))及び3019220305(若齢うなぎ(1kgに11-500尾))。